

第2学年

「ビーバーの大工事」を基に

C読むことの領域に関する指導事項が挙げられる。本来(イ)に関する指導事項であるが、その他の事項(エ)(オ)の指導事項についても関連付けて指導を行うことが求められる。

(付けたい力に合わせた具体的な学習目標を設定する) 2つのパターンを通して

(エ) 文章の中の大事な言葉や文を書き抜くこと

↓

付けたい力＝説明的文章を大事な言葉を探しながら読む力

言語活動の設定

○動物や生き物について書かれている文章を読んで、友達が作ったクイズに答える。

(イ) 時間的な順序や事柄などを考えながら内容の大体を読むこと。

↓

付けたい力＝動物の生活の仕方について説明された文章を、順序に沿って読むことができる力

言語活動の設定

3つの例を提示してその中で行いたい言語活動をどのように設定するかを考えさせる。その際、学年の発達段階に応じて考えることが重要である。活動を考える際には、劇やクイズ、絵本作りといった活動自体が重要なのではなく「どのような○○」にするのかを考える必要がある。付けたい力がその「どのような」を規定するものである。

そこで、次のような言語活動を設定することができる。

○動物の生活の仕方について説明された文を読んで、興味をもったことについてクイズを作ったり、友だちの作ったクイズに答えたりする。

学習目標の設定の仕方

時間や場所などの経過を表す言葉を手がかりにしながら、←「どのように考え」

動物の生活の仕方を

←「何を」

順序に沿って読み、クイズを作ったり友だちの作ったクイズに答えたりする。

↑

「どうすることができるようになることを目指すのか」

単元構成の在り方

第二次の中で、常にクイズを意識させなければならない。留意すべき点は、一次ではクイズ作りであったのに、第二次ではひたすら読み、第三次でクイズが急に復活するのではためである。

そこで、第二次ではそれぞれの時間に教材文を基にクイズに答える。クイズに答えながら、大事な言葉に着目する視点が児童に育つ。クイズが毎回毎回レベルアップすることで読みの力が向上する。

教師のクイズ例

STEP 1 の提示【クイズの作り方を理解させる(大事な言葉を探す問題)】

①「ビーバーはどれくらい、水の中にいられますか。」

キーワード(どれくらい)(水の中) ←時間・場所の視点

②「ビーバーの尾は、どんな形ですか。」

キーワード(お)(どんな形) ←体・形

STEP 2 の提示【クイズのレベルを上げる(順序に沿って読む問題)】

①「ビーバーはどんな順序でダムを作りますか。」

キーワード(どんな順序)

②「ビーバーは切り倒した木を、どのようにしますか。」

キーワード(どのようにしますか)

③「ビーバーがダムを作るのはなぜですか。」

キーワード(ダムを作るのはなぜ)

※③に対する答えを推敲することで、順序に沿って読むことに気付くことができる。

「順序に沿って読め。」と指導するのではなく、必然的に順序に沿って読まざるを得ない問いに向き合わせる事が大切。また、事前に教師が様々なクイズを準備しておく、価値あるクイズを選定しておくことが必要である。